

砂防だより



菜の花と富士山(富士宮市)

新年度の御挨拶	2
令和5年度の行事予定	3
・ かけ崩れ防災週間 ・ 土砂災害防止月間	
令和5年度砂防関係当初予算	4
逢初川直轄砂防災害関連緊急事業引き渡し・熱海緊急砂防出張所閉所式の開催	6
市町等砂防担当職員現場研修を開催	
台風15号によるソフト対策の効果事例について	7
あなたのまちの安全度	8
「土砂災害防止に関する絵画・作文」優秀作品の表彰	10
わがまち(伊東市)	13
歴史探訪 伊豆半島初の砂防事業	
インフォメーション	14
お知らせ	16

速報 令和5年度 砂防関係当初予算

特集 あなたのまちの安全度

「土砂災害防止に関する絵画・作文」 優秀作品の表彰



全国治水砂防協会静岡県支部

新年度の御挨拶

陽春の候、会員の皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年、全国では平年より少ない795件の土砂災害の発生件数でしたが、8月初旬には新潟県、9月の台風14号では鹿児島県、宮崎県に、台風15号では本県などに大雨をもたらし、局地的に多くの土砂災害が発生しました。

本県におきましては、年度当初から災害に見舞われ、4月には西伊豆町で土石流、6月には下田市でがけ崩れ、8月の台風8号では松崎町で土石流、9月の台風15号では静岡市以西で多くの土砂災害に見舞われるなど、計211件の土砂災害が発生しました。特に台風15号におきましては、県内に記録的短時間大雨情報が16回も発表されるなど記録的な大雨となり、167件の土砂災害が発生し1名の方がお亡くなりになりました。

これらの土砂災害のうち、土石流が発生した西伊豆町仁科、松崎町雲見、静岡市葵区油山、藤枝市原の4箇所、及びがけ崩れが発生した下田市敷根、磐田市平松の2箇所については、災害関連緊急事業が採択され、地域住民の安全・安心を図るため早期の工事完了に努めてまいります。

また台風15号は、国の激甚災害の指定を受けたことから、県内で初めて静岡市内の2箇所において、保全人家5戸未満でも対策ができる災害関連地域防災がけ崩れ対策事業が採択になりました。

県では、頻発する土砂災害から県民の生命と財産を守るため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などを活用し、ハード対策とソフト対策の両面から総合的な土砂災害対策を集中的に推進しています。

加えて、要配慮者や過去に土砂災害を受けた地区及びライフライン施設等を土砂災害から守るため、「豪雨等災害対策緊急事業」等により、緊急的、集中的に土砂災害防止施設を整備し、防災機能の向上を推進してまいります。

早めの避難につながるソフト対策については、新たな測量技術を活用し土砂災害警戒区域の指定要件を満たす箇所の抽出作業を行い、土砂災害警戒区域等の追加指定を進めてまいります。また、土砂災害警戒情報の発表精度の向上や補足情報システムの改善に取り組むとともに、看板等による警戒区域の現地表示、ハザードマップ作成や防災訓練の実施などによる市町の警戒避難体制整備への支援や、土砂災害防止講習会や出前講座などによる防災知識の普及・啓発に取り組んでまいります。

今後とも、会員の皆様方には、より一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和5年4月1日

全国治水砂防協会静岡県支部 常任幹事

杉本 敏彦

静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課

TEL 054-221-3044
FAX 054-221-3564

参事(防災技術担当)

杉本 文和

☎3040

参事兼砂防課長

杉本 敏彦

☎3382

課長代理

大野 正敏 ☎3382

- 課長の代理
- 砂防協会、砂防ボランティア事務

砂防班

副班長 小沼 佳記 ● 警戒避難体制整備の促進 ● 砂防指定地内行為許可申請の技術審査	マイクロー 342 班 長 三谷 真史 ● 砂防班の総括 ● 直轄砂防事業の調整 ● 富士山の火山噴火対策
主任 原崎 健輔 ● 土砂災害防止法に関すること ● 基礎調査 ● 土砂災害警戒区域等の指定・解除	☎3041 主 査 三井 良太 ● 県単砂防事業 ● 災関緊急砂防事業 ● 砂防指定地の指定 ● 伊豆東部火山群の火山噴火対策
技 師 小林 知樹 ● 情報基盤整備事業 ● 土砂災害防止の広報・啓発 ● 演習場周辺地区障害防止事業	土砂災害 110番 ☎3044 主 任 井出 隼吾 ● 補助・交付金砂防事業 ● 砂防技術基準

傾斜地保全班

班 長 松村 昌広 ● 傾斜地保全班の総括 ● 直轄地すべり事業の調整	マイクロー 341 主 査 田村 文孝 ● 地すべり事業(林野) ● 災関緊急地すべり事業(林野) ● 県単急傾斜地事業(新設)
主 査 平野 秀直 ● 補助・交付金急傾斜地事業 ● 災関緊急急傾斜地事業 ● 急傾斜地崩壊対策の技術基準	☎3043 主 任 山本 仁 ● 地すべり事業(農地) ● 災関緊急地すべり事業(農地) ● 県単急傾斜地事業(維持) ● 急傾斜地崩壊危険区域の指定
技 師 花木 智洋 ● 土砂災害警戒情報 ● 地すべり事業(国交) ● 災関緊急地すべり事業(国交)	土砂災害 110番 ☎3042 砂防協会 小杉 祐子 ● 砂防協会の事務・経理

※指定地管理及び砂利・碎石関係事務等は、河川砂防管理課 ☎3028 (課長)鍋田 航平
「河川砂防管理課」で担当します。 河川砂防管理班 ☎3034 (班長)横原 宏 (主任)岡部 秀哉 (主事)曾根 剣一郎

※水防に関すること、交通基盤部内の防災対策の総合調整及び災害復旧事業の総括に関することについては、土木防災課 ☎3033
同室内にある「土木防災課」で担当します。

【令和5年度の行事予定】

月日	時刻	活動	会場等
4月 21日(金)	11:00	全国治水砂防協会静岡県支部会計監査	中島屋グランドホテル(静岡市)
5月 25日(木)	11:00	(一社)全国治水砂防協会令和5年度(第87回)通常総会	砂防会館(東京都)
// 31日(水)	13:30	全国治水砂防協会静岡県支部役員会	浮月楼(静岡市)
// 31日(水)	14:30	全国治水砂防協会静岡県支部令和5年度(第78回)通常総会	浮月楼(静岡市)
6月1日(木)~ 7日(水)		がけ崩れ防災週間	静岡県内各地
// 1日(木)~30日(金)		土砂災害防止月間	静岡県内各地
// 1日(木)		「土砂災害防止月間」キャンペーンバス出発式	バス営業所
// 2日(金)		「土砂災害防止月間」街頭キャンペーン	JR静岡駅
// 4日(日)		土砂災害・全国防災訓練	静岡県内各地
// 9日・16日(金)		市町等砂防担当職員研修(防災演習)	静岡県庁
// 17日(土)		みんなで防ごう土砂災害(砂防フェスティバル)	青葉シンボルロード(静岡市)
8月24日(木)~26日(土)		市町長等砂防関係事業県外視察	熊本県内(予定)
10月 下旬		東海地区砂防協会支部長・砂防課長合同会議	静岡県内
11月 月上旬		市町等砂防担当職員研修(現場研修)	検討中
// 16日(木)	11:00	全国治水砂防促進大会	砂防会館(東京都)
2月 中旬		第64回砂防および地すべり防止講習会	砂防会館(東京都)

※ 太字の行事について、会員の積極的なご参加をお願い申し上げます。

がけ崩れ防災週間 土砂災害防止月間

6月1日(木) ▶ 7日(水)

6月1日(木) ▶ 30日(金)

土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害は、台風や集中豪雨などが原因となって発生します。梅雨時は雨が多く土砂災害が発生しやすい時期です。近年は頻発化・激甚化する豪雨等による被害が増えていますので、雨が降りだしたら防災・気象情報などに注意しましょう。

毎年、梅雨入りを迎える6月を土砂災害防止月間として、県民のみなさまに土砂災害防止について理解と関心を深めていただくため、国、県、市町などの関係機関が連携し、急傾斜地パトロールや防災訓練、講習会などを実施しています。

行事予定

- 6月1日~30日 急傾斜地パトロール(重点実施)
- 6月 1日(木) 「土砂災害防止月間」キャンペーンバス出発式
- 6月 2日(金) 「土砂災害防止月間」街頭キャンペーン
- 6月 4日(日) 土砂災害・全国防災訓練
- 6月 17日(土) みんなで防ごう土砂災害(砂防フェスティバル)の開催(青葉シンボルロード)
- 6月1日~ 9月15日 「土砂災害防止に関する絵画・作文」の作品募集



令和4年度 街頭キャンペーンの様子(静岡駅コンコース)

令和5年度 砂防関係当初予算

108億4,045万円余

令和5年度当初予算が令和5年2月県議会定例会において可決され、静岡県一般会計の歳出総額は1兆3,703億円で、前年度に比べ59億円の増、対前年度比100.4%でした。

砂防関係事業の予算は、予算総額約108億4,045万円、前年度より5億5,400万円の減、対前年度比95.1%となりました。主な内訳は次のとおりです。

1 一般公共事業 51億300万円

国の補助事業や交付金事業を活用し、砂防堰堤等の防止施設の整備とともに、高精度な地図を活用した新たな危険箇所の基礎調査の実施や市町の警戒避難体制の整備を促進するソフト対策に取り組みます。

2 県単独事業 34億6,500万円

国庫補助事業や交付金事業に採択されない箇所の防止施設の整備や調査等を実施します。

なお、令和5年度より、緊急治水対策事業の後継事業として豪雨等災害対策緊急事業が創設されました。

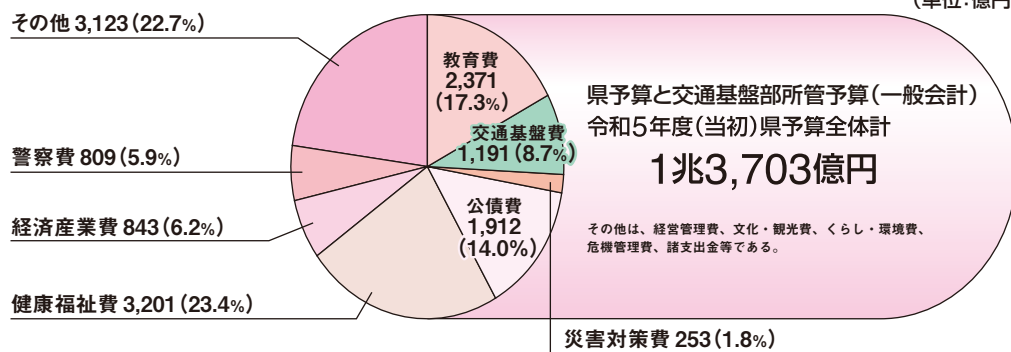
3 国直轄事業費負担金 22億7,000万円

富士山、安倍川、狩野川において国土交通省が行う直轄砂防事業及び由比地区直轄地すべり対策事業に対する県負担金です。

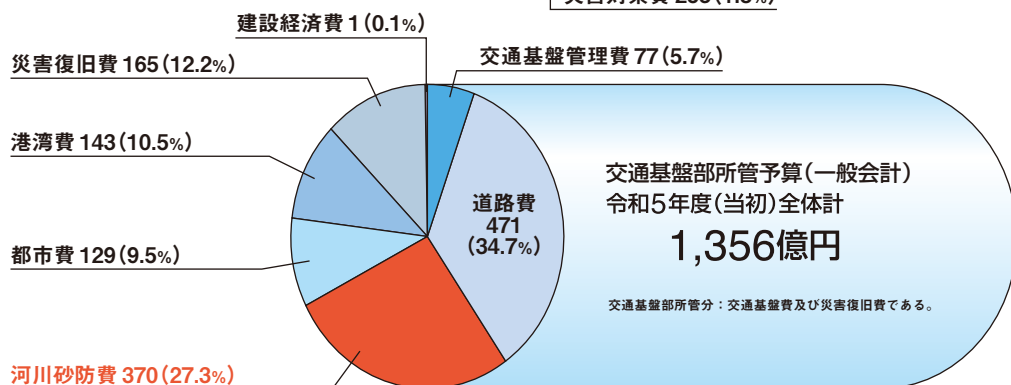
静岡県の砂防関係予算

(単位:億円)

● 県予算と交通基盤部予算 (令和5年度当初)



● 交通基盤部所管予算 (令和5年度当初)

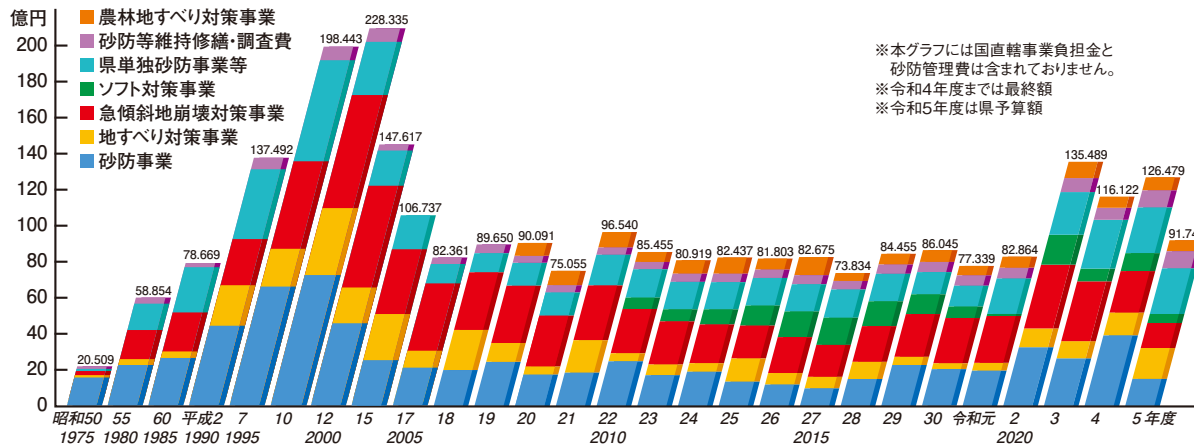


(単位:千円、%)

令和5年度 砂防関係事業等予算額調書

Table with columns: 事業名, 令和5年度当初 A, 令和4年度当初 B, 令和4年度最終 C, A/B, A/C. Rows include categories like 砂防管理費, 河川改良費, 国庫補助, 一般公共事業, 生活環境整備, 砂防, 農林地すべり対策事業, etc.

砂防関係事業費の推移



※本グラフには国直轄事業負担金と砂防管理費は含まれておりません。
※令和4年度までは最終額
※令和5年度は県予算額

逢初川直轄砂防災害関連緊急事業引き渡し・熱海緊急砂防出張所閉所式が開催される

3月20日(月)に、「逢初川直轄砂防災害関連緊急事業引き渡し・熱海緊急砂防出張所閉所式」が県熱海総合庁舎で開催されました。

式典は、国土交通省砂防部の三上砂防部長、熱海市長をはじめ、国、県、市の出席のもと、稲田中部地方整備局長から太田交通基盤部長へ砂防施設引き渡しの目録が手交され、出張所看板の降納が行われました。

令和3年7月の豪雨により逢初川では、大規模な土石流が発生し、28名の尊い命や多くの家屋が失われました。迅速な再度災害防止対策を進めるためには、無人化施工などの高度な技術力を必要とすることから、県は国に対し、国直轄施工による緊急的な砂防工事の実施を要望し、直轄の事業化が決定しました。その後、熱海緊急砂防出張所の開設により、早期の工事着手・完成に向けての現場体制が整い、計画通りこの3月に事業を完了するはこびとなりました。

逢初川の安全性は、今回引き渡しとなった新設砂防堰堤の整備と県が現在実施している行政代執行による土砂の撤去工事により確保されることとなり、これを受け、熱海市による警戒区域の解除が、今年の夏に行われる予定となっています。



目録の手交



看板降納写真撮影

市町等砂防担当職員現場研修を開催

1月20日(金)に、市町等砂防担当職員現場研修を県沼津土木事務所、熱海土木事務所管内で実施し、県内市町と県土木事務所の担当職員21名が参加し、土砂災害対策等について学びました。

「大久保急傾斜地崩壊対策事業(沼津市志下)」では、がけ崩れ対策工法や現場での苦勞した点等を、「狩野川資料館(伊豆の国市壺之上)」では、狩野川台風の被害状況や狩野川放水路の役割等について説明を受けました。

「大室山(伊東市富戸)」ではリフトで山頂に登り、伊豆東部火山群の全景を見ながら、火山噴火について学び、また、平成29年に土石流が発生した「石脇沢(伊東市八幡野)」や令和3年に土石流が発生した「逢初川(熱海市伊豆山)」では、土石流災害後の再度災害防止対応について、現場で説明を受けました。特に「逢初川」では、被災家屋の一部が残っていることもあり、改めて被害の大きさを実感しました。

参加者からは、「災害発生時はスピード感が大事ということをより強く認識した。」、「災害が起きたところから施設整備までの背景の説明を受けながらの現場視察であったため、なぜ事業が行われたかを理解しながら現場を見れた点が非常に良かった。」、「各現場の状況や事業に至る経緯など、災害時の対応を含めて、今後の業務に生かしていきたい。」などの感想が寄せられました。

参加市町等

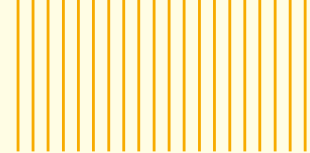
《市町13市》 熱海市、伊東市、沼津市、御殿場市、裾野市、伊豆の国市、
富士市、藤枝市、菊川市、湖西市、松崎町、函南町、小山町
《静岡県1土木事務所》 富士土木事務所



急傾斜事業の説明(大久保)



被災現場での説明(逢初川)



台風15号によるソフト対策の効果事例について

昨年9月23日～24日に本県に接近した台風15号により県中西部を中心に記録的な大雨となり、167件の土砂災害（土石流等：54件、地すべり：2件、がけ崩れ：111件）が発生しました。

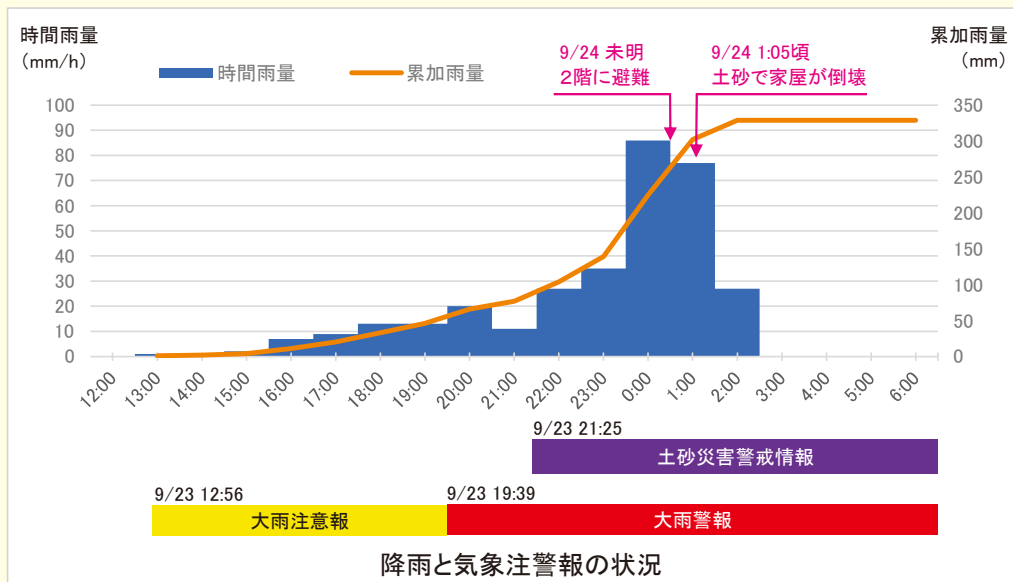
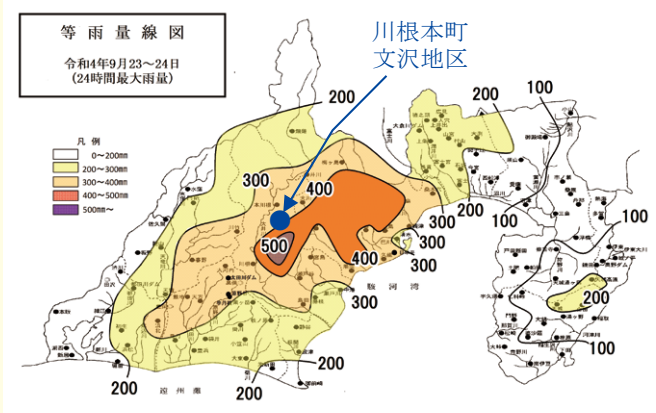
この大雨に伴い、10市町で土砂災害警戒情報の発表等を契機に避難指示や高齢者等避難の避難情報が発令され、土砂災害に対する注意が呼びかけられました。

川根本町文沢地区では、深夜に土砂災害特別警戒区域に指定された斜面から大量の土砂が流出し、家屋が損壊しました。1世帯4名は夜間の避難情報の発令であったことから、避難場所までの移動が困難であると判断し、垂直避難として2階に避難したことにより、人的被害を防ぐことができました。



被害の状況

【災害の経緯：台風15号】		
9/23(金)	12:56	大雨注意報発表
	19:39	大雨警報発表
	21:25	土砂災害警戒情報発表
9/24(土)	未明	2階に避難
	1:05頃	土砂で家屋が損壊
	7:50	土砂災害警戒情報解除
	15:40	大雨警報解除



あなたのまちの安全度

県では、令和元年度末までに指定が完了した18,215箇所（土砂災害警戒区域等）を対象に、土砂災害対策施設整備や地形改修する3次元データを活用した基礎調査の対象箇所の抽出を実施しています。

引き続き、土砂災害から県民の生命・財産を守るため、砂防堰堤・擁壁などの土砂災害防止施設の整備とともに、住民への（地図の公表等）や土砂災害警戒情報の発表などのソフト対策を合わせた、総合的な土砂災害対策を進めていきます。

市町別土砂災害危険箇所数とソフト対策の実施状況

（令和5年3月31日 現在）

所管 土木	市町名	土砂災害警戒区域指定状況				土砂災害特別警戒区域指定状況				警戒区域 ハザード マップ
		土石流	地すべり	急傾斜地	計	土石流	地すべり	急傾斜地	計	
下田	下田市	256		346	602	183		328	511	599
	東伊豆町	31	6	67	104	19		66	85	104
	河津町	105	6	130	241	72		129	201	241
	南伊豆町	304	1	285	590	229		266	495	590
	松崎町	104	1	144	249	26		17	43	249
	西伊豆町	100	1	149	250	54		120	174	231
	小計	900	15	1,121	2,036	583		926	1,509	2,014
熱海	熱海市	105	1	195	301	59		194	253	301
	伊東市	107	2	259	368	72		256	328	368
	小計	212	3	454	669	131		450	581	669
沼津	沼津市	124		256	380	61		250	311	380
	三島市	22		97	119	15		90	105	119
	御殿場市	30		21	51	19		20	39	51
	裾野市	52		60	112	44		57	101	112
	伊豆市	579	11	590	1,180	355		583	938	1,180
	伊豆の国市	140	2	312	454	91		308	399	454
	函南町	37	1	105	143	27		105	132	143
	清水町	2		17	19			17	17	19
	長泉町	2		36	38	2		35	37	38
	小山町	47		78	125	11		72	83	125
	小計	1,035	14	1,572	2,621	625		1,537	2,162	2,621
富士	富士宮市	109	2	296	407	64		285	349	407
	富士市	53	2	174	229	32		155	187	229
	小計	162	4	470	636	96		440	536	636
静岡	静岡市	1,010	32	1,967	3,009	736		1,917	2,653	3,009
	小計	1,010	32	1,967	3,009	736		1,917	2,653	3,009
島田	島田市	234	42	540	816	148		527	675	816
	焼津市	29	1	60	90	17		57	74	90
	藤枝市	235	37	500	772	152		490	642	772
	牧之原市	41	5	420	466	24		419	443	466
	吉田町			12	12			11	11	12
	川根本町	55	10	195	260	34		193	227	259
	小計	594	95	1,727	2,416	375		1,697	2,072	2,415
袋井	磐田市	93		254	347	62		253	315	347
	掛川市	216	23	1,109	1,348	176		1,100	1,276	1,348
	袋井市	49		270	319	36		265	301	319
	御前崎市	16	1	351	368	14		349	363	368
	菊川市	83	4	610	697	71		604	675	697
	森町	79	18	431	528	55		422	477	528
小計	536	46	3,025	3,607	414		2,993	3,407	3,473	
浜松	浜松市	572	138	2,309	3,019	397		1,953	2,350	3,019
	湖西市	5		225	230	3		219	222	230
	小計	577	138	2,534	3,249	400		2,172	2,572	3,249
合計		5,026	347	12,870	18,243	3,360		12,132	15,492	18,086

■警戒区域ハザードマップ：土砂災害防止法8条3項に定められた、市町村が作成するハザードマップ



静岡県の土砂災害情報は、
<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/sabo/doshasaigai/1029522.html>
 でご覧になれます。

変に応じて区域を見直すとともに、航空レーザ測量により取得

土砂災害(特別)警戒区域の周知(インターネットによる指定区

市町別ハード対策(土砂災害防止施設の整備)の実施状況

(令和5年3月31日 現在)

所管 土木	市町名	土石流			地すべり			急傾斜地			合 計		
		採択可能 渓流数	概 成 渓流数	整備率 (%)	採択可能 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)	採択可能 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)	採択可能 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)
下田	下田市	94	17	18.1				164	34	20.7	258	51	19.8
	東伊豆町	16	8	50.0	6	1	16.7	38	8	21.1	60	17	28.3
	河津町	53	15	28.3	5	2	40.0	44	13	29.5	102	30	29.4
	南伊豆町	119	12	10.1	1	1	100.0	131	40	30.5	251	53	21.1
	松崎町	71	8	11.3	1	1	100.0	77	23	29.9	149	32	21.5
	西伊豆町	64	18	28.1	1			67	20	29.9	132	38	28.8
	小 計	417	78	18.7	14	5	35.7	521	138	26.5	952	221	23.2
熱海	熱海市	91	19	20.9	1			95	15	15.8	187	34	18.2
	伊東市	82	25	30.5	2	1	50.0	110	27	24.5	194	53	27.3
	小 計	173	44	25.4	3	1	33.3	205	42	20.5	381	87	22.8
沼津	沼津市	96	22	22.9				128	73	57.0	224	95	42.4
	三島市	15	2	13.3				39	18	46.2	54	20	37.0
	御殿場市	8	6	75.0				3			11	6	54.5
	裾野市	23	11	47.8				24	6	25.0	47	17	36.2
	伊豆市	328	62	18.9	8	1	12.5	148	46	31.1	484	109	22.5
	伊豆の国市	74	5	6.8	1			82	34	41.5	157	39	24.8
	函南町	14	4	28.6	1			32	7	21.9	47	11	23.4
	清水町	2	1	50.0				11	1	9.1	13	2	15.4
	長泉町	1						18	3	16.7	19	3	15.8
	小山町	35	10	28.6				37	22	59.5	72	32	44.4
	小 計	596	123	20.6	10	1	10.0	522	210	40.2	1,128	334	29.6
富士	富士宮市	66	20	30.3	1			81	26	32.1	148	46	31.1
	富士市	48	18	37.5	1	1	100.0	55	32	58.2	104	51	49.0
	小 計	114	38	33.3	2	1	50.0	136	58	42.6	252	97	38.5
静岡	静岡市	540	137	25.4	11	4	36.4	654	309	47.2	1,205	450	37.3
	小 計	540	137	25.4	11	4	36.4	654	309	47.2	1,205	450	37.3
島田	島田市	83	19	22.9	26	7	26.9	132	73	55.3	241	99	41.1
	焼津市	13	7	53.8	1	1	100.0	25	21	84.0	39	29	74.4
	藤枝市	69	29	42.0	27	9	33.3	117	66	56.4	213	104	48.8
	牧之原市	13	12	92.3	2	3	150.0	57	25	43.9	72	40	55.6
	吉田町							3	2	66.7	3	2	66.7
	川根本町	23	4	17.4				33	14	42.4	56	18	32.1
	小 計	201	71	35.3	56	20	35.7	367	201	54.8	624	292	46.8
袋井	磐田市	20	2	10.0				33	7	21.2	53	9	17.0
	掛川市	39	3	7.7	11	7	63.6	102	28	27.5	152	38	25.0
	袋井市	7						30	11	36.7	37	11	29.7
	御前崎市	1						33	18	54.5	34	18	52.9
	菊川市	9	2	22.2		1		84	35	41.7	93	38	40.9
	森町	23	7	30.4	5	2	40.0	26	4	15.4	54	13	24.1
	小 計	99	14	14.1	16	10	62.5	308	103	33.4	423	127	30.0
浜松	天竜区	128	53	41.4	66	25	37.9	306	89	29.1	500	167	33.4
	天竜区以外	43	11	25.6	5	4	80.0	281	69	24.6	329	84	25.5
	浜松市計	171	64	37.4	71	29	40.8	587	158	26.9	829	251	30.3
	湖西市							54	10	18.5	54	10	18.5
	小 計	171	64	37.4	71	29	40.8	641	168	26.2	883	261	29.6
合 計		2,311	569	24.6	183	71	38.8	3,354	1,229	36.6	5,848	1,869	32.0

■土石流危険渓流はH15公表による危険渓流 I
 土石流危険渓流は直轄施行分含み

■地すべりは
 国土交通省所管のみ

■急傾斜地崩壊危険箇所は
 H15公表による危険箇所 I

令和4年度

「土砂災害防止に関する絵画・作文」優秀作品の表彰

令和4年度に、土砂災害防止月間の取組みの一環である「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集したところ、県内で70点の応募がありました。

今年度は、静岡市立城内中学校の中司杏実さんが作文の部にて国土交通大臣賞、富士市立岩松中学校の渋谷梨乃さんが絵画の部にて国土交通事務次官賞に選ばれました。また、静岡県知事賞他5点の計8点が受賞しました。

3月28日(火)に県庁で行われた表彰式では、ご家族の方々が見守る中、静岡県交通基盤部長より、受賞者の皆さんに表彰状が授与されました。



受賞者と交通基盤部長、砂防課長の集合写真



国土交通大臣賞を受賞した中司杏実さんの表彰風景

■栄えある受賞者のみなさん

(敬称略)

賞	部門	学年	受賞者名	学校
国土交通大臣賞	中学生作文	2	中司 杏実	静岡市立城内中学校
国土交通事務次官賞	中学生絵画	2	渋谷 梨乃	富士市立岩松中学校
静岡県知事賞	中学生絵画	3	曾根田 希星	浜松市立北浜中学校
静岡県交通基盤部長賞	小学生絵画	4	奥村 優	静岡市立西奈南小学校
全国治水砂防協会 静岡県支部長賞	中学生絵画	2	池田 あかね	伊豆の国市立葎山中学校
	中学生絵画	3	稲葉 琉々香	富士宮市立大富士中学校
	中学生作文	2	内山 緋理	浜松市立細江中学校
	中学生作文	2	山岡 悠駕	浜松市立細江中学校

国土交通
事務次官賞

富士市立岩松中学校
2年
渋谷 梨乃さん



静岡県知事賞

浜松市立北浜中学校
3年
曾根田 希星さん



国土交通大臣賞

「人目が見つからない地中での大工事を見学して」

静岡市城内中学校 2年 中司 杏実さん

童話「おむすびころりん」の、おむすびのように、私はぽっかりと開いた穴の中に吸いこまれていった。

私はこの夏、由比で行われた「地すべり対策子供見学会」に参加した。これは国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所、静岡県、静岡市、建設業者の方々の協力のもと、私が生まれるずっと前…十七年も前から着手されている地すべり対策工事を見学し、建設業の魅力を体験するツアーである。

静岡市の中央部に位置し、日本の交通が集約されている由比地区は、「東海道五十三次の由井薩埵の嶺の図」でも知られている富士山の美しい眺望、山、海、鉄道、道路を一度に見渡すことのできる日本屈指の名所である。

ツアーは、普段は進入が制限されている工事車両専用の農道を探検隊のように車で移動する。その特別感に胸がワクワクした。

山の中を進んでいくと、絶景とともに作業員さんが拠点とする休憩所があった。作業員の中には女性もいらっしやってトイレも男女に分けられている。さらに暑さ対策のスポットクーラーも備えられ、私が勝手に想像していた休憩所と違って、快適そうに見えた。

そのすぐ近くに、トンネルを縦にして地中に埋めたような大きな穴と重機があった。鉄の壁で囲まれたその縦穴の直径は約六メートル、現在の穴の深さは約六十メートル。今後、一日十二時間掘り続けても三十センチしか進まない強固な岩盤を、地道な作業を繰り返しながら八十メートル程度まで掘り進め、その後コンクリートを流しこみ固める。それが杭の役割を果たし、山の表面が地面ごと滑り落ちてしまう現象を止める。その名は、深礎杭(しんそくい)。一本打つのに十ヶ月以上もかかる気が遠くなるような工程である。

しかし、地中深くにあるため、その全容を見ることはできない。ならばCGで比較してみようという動画で、もし杭が地上にでていたら自由の女神や、十七階建ての静岡市役所と同じ位の高さだということを知った。

一緒に参加した妹と、眼鏡が穴底に落ちてしまわないか最善の注意を払いながら、「おーい。」

と地中に向かって叫んでみたが、声は穴に吸収され、思ったよりもこだまらなかった。

私達は、業者の方の指導のもとドローンを飛ばす体験や説明を聞いた後、参加者に配られたヘルメットや軍手に加え、股下まで通す頑丈な命綱を着用し、専用の工事用エレベーターに乗って「おむすび」になった気分穴底に吸いこまれた。外は猛暑なのに中はひんやりとしている。作業員の方が、穴の中は有毒ガスが発生している危険があるため、日頃からとても注意深く作業をしているのだと話して下さった。少し怖くなったが、

「今日もしっかり測定、管理をしているから安心して下さい。」

と言ってくださりホッとした。作業場の注意を促すため設置された看板は、カラフルで、大切な事項がきちんと目に留まる工夫がなされていて、現場を明るい雰囲気にしてた。

資料館に場所を移した説明では、由比地区は交通の要所・難所であるとともに、地震や大雨により幾度となく被災した大変な歴史があることを学んだ。山全体を模型で見渡すと、まるで一つの巨大な建造物のように見える。深礎杭が何十本も埋設されているだけでなく、今回は見られなかったが、山全体の水を排出する設備(抑制工)、地面の動きや気候を二十四時間監視している様々な設備があることを知った。常時見守ってくれている安心感!

私は今回この見学会を通して、私達が普段目にするることのできない場所で、安全のために、こんなにも大きな建造物を造る作業をしてくださっている方々に感謝するとともに、もっとたくさんの人達に、この大きなプロジェクトについて知ってほしいと心から思った。

近年、各地で土砂災害が多発している。地すべりのほかに、急傾斜地が突然崩れるという山崩れ(がけ崩れ)、山や谷の土砂が大雨などで水と混じってふもとに流れこむ土石流など、様々な種類の土砂災害があり、近年は日本各地で何百、何千年に一度の想定外の災害が起きるなど、自然の驚異は計り知れない。

私達の生活にとって、水や土は大切なものだが、美しい自然を楽しむ一方でその危険性もはらんでいる。それを可能な限り未然に防ごうと人目につかないところで工事をして下さっている関係者の方々や、災害で被災しながらも負けることなく後世の私達に様々なことを教えてくれた先人の方々に改めて感謝をしながら、ずっとこの美しい景色を觀賞し続けたいと願った。

万が一、土砂災害に遭遇してしまった時の様々な知識を持ち、その時何をすべきか、対処方法を心のどこかに留めながら。

静岡県交通基盤部長賞

静岡市立西奈南小学校 4年
奥村 優さん



全国治水砂防協会静岡県支部長賞

伊豆の国市立葎山中学校 2年
池田 あかねさん



富士宮市立大富士中学校 3年
稲葉 琉々香さん



全国治水砂防協会静岡県支部長賞

「私たちにできること」 浜松市立細江中学校 2年

最近、異常気象の影響で、頻繁に土砂災害警戒情報が発表されています。私の家は土砂災害警戒区域で、もし家の近くで、土砂災害が起きるとなると怖いと思います。テレビのニュースで、がけ崩れが起きたと聞くと、ゾッとしてしまいます。そんなとき、去年の七月に起きた、静岡県の熱海の土石流のことを思い出しました。私の住んでいる静岡県で起きたということで、とても怖くなりました。先日のニュースで、多くの人が亡くなり、今もなお、行方不明の方が一人いることを知り、とても大きな災害だったということを改めて思いました。亡くなった方もいるけど、家を失った人たちも多くいて、かわいそうになりました。土石流が起きると、ニュースで実際の映像が流れました。映像を見るだけで恐怖がとても伝わりました。実際、土石流に会ったり、見た人たちはどれだけ怖かったんだろうなと思いました。土石流のことについて、調査が進むと、今回の熱海の土石流は盛り土が流れ、人の手によって起こったということが分かり、この土石流で亡くなった人がとてもかわいそうになり悲しくなりました。盛り土は危険であることを知って、二度とこのようなことがないことを願っています。

土砂災害は、土石流だけではなくありません。例えばがけ崩れや地すべり、河道閉塞です。これらの土砂災害には、前兆現象があるそうです。前兆現象を知っておくことで、自分の命を守ることができると思いました。土砂災害は大雨や長雨といった梅雨や台風の際に起こったり、その後起こる確率が高いと思います。土砂災害はいつ起こるか分からないので常の生活で危機感を持ちながら、特に梅雨や台風の際、その後の時期はより危機感を持ちたいと思うことができ、知れてよかったです。

土砂災害を詳しく知ったことで何か自分にできることはないのかと思考してみると、社会科の授業で習った「公助」「自助」「共助」を思い出しました。その中でも、私は「自助」と「共助」はできると思いました。「自助」は自分自身や家を守るので、家族の中で、話し合

内山 緋理 さん

い避難ルートを知っておくことや、防災バッグを準備しておくことが一番にやれることだと思います。災害についての知識を持つことも自分自身の命を守ることに繋がると思いました。「共助」は住民どうしが協力して助け合うということです。私の住んでいる地域はお年寄りの方が多いです。もし、私の住んでいる地域で災害が起こったときは、手助けができるようにしたいです。そして、困っている人などを助けてあげたいと思いました。他に私たちができることは、防災訓練に参加することだと思います。土砂災害などの災害について詳しく知る前の私は、防災訓練の意味をあまり理解していなかったと思います。今回のことをしっかり理解し、今一度防災訓練の意味を考えたいです。防災訓練は学校や地域で行われています。学校の防災訓練では基本的に、「自助」するために必要な知識を身につけることができます。そして地域の防災訓練では「自助」するための知識はもちろんのこと、「共助」についても学べると思っています。地域の防災訓練に参加することで、地域の人たちとのコミュニケーションをとることができます。コミュニケーションをとることで、災害が起こったときに、協力しやすいと思うからです。コミュニケーションなどは日々の生活でも必要です。日々の生活が土砂災害などの災害が起こったときにも役立つと思いました。防災訓練は、月に一回もあるわけではありません。だから、一回一回の防災訓練を大切にしたいと思うことができました。そして、学んだことを土砂災害が起きたときに生かせるようにしたいです。

最後に、私は、熱海の土石流のような土砂災害は起きてほしくないです。もし、土砂災害が起きたら、「自助」や「共助」をできるようにしたいです。日々の生活でも生かせることが多いです。もしものときに日々の生活が生きるようにしたいです。他にも、防災訓練などの貴重な経験を無駄にしないようにしたいです。そして、人的被害が起きる、土砂災害が二度と起こらないことを願っています。

全国治水砂防協会静岡県支部長賞

「災害について」 浜松市立細江中学校 2年 山岡 悠駕 さん

昨年の七月三日、静岡県熱海市で発生した大規模な土石流を覚えているだろうか。僕はこの土石流の発生の映像をテレビで見たとき唖然としたのを一年以上経った今でも覚えている。

昨年の七月に熱海市を記録的な豪雨が襲い、その影響で土石流が発生した。死者数は二十七人に及び、現在でも一人の女性が行方不明となっている。また、被害に遭った地域は立ち入り禁止区域となり、約百三十世帯が避難生活を送っている。災害発生直後の町は地面が泥で覆われ、多くの建物が崩壊し、大変悲惨な様子となっていた。

僕はこの災害を経て、災害の恐ろしさを感じ、それと共にこの土石流を防ぐ、被害を減らすことは出来なかったのかと思った。そこで自然災害による被害を少しでも抑えるために四つのが大切であると考えた。

まず一つ目は、自然災害が発生する前に避難場所や危険な場所、避難経路などを確認して、知っておくことである。そのためには、ハザードマップ（防災マップ）を見れば良いだろう。ハザードマップとは、自然災害が発生時の被害を予測し、被害を受ける範囲や避難経路、避難場所、危険な場所などの防災・減災の情報がかかっている地図のことだ。このハザードマップは洪水や火山の噴火、地震の揺れ、津波、高潮などの土石流以外の災害にも対応している。この地図を確認しておき、実際に自然災害が起こった場合にどう避難するか考えると良いだろう。自分一人だけではなく、家族と一緒に確認したり、地域を歩いて実際に避難場所や危険な場所、避難経路などを自分の目で確かめたりすれば、災害に対する意識が上がり、自分の命を守ることに繋がるとはならないだろう。

次に二つ目は、非常用持ち出し袋を用意しておくことである。非常用持ち出し袋（防災非常袋）とは、ナップサックのような簡易的な袋

に避難所での生活に必要な最低限の物を入れたものである。これにはペットボトルの水やお菓子や缶詰などの非常食、ヘルメットや防災頭巾などの防災グッズ、タオルや歯ブラシなどの洗面用具、ウエットティッシュや筆記用具などの日用品、懐中電灯、マスク、使い捨てカイロ、ばんそうこう、乾電池、免許証、通帳などの物を入れることが多い。水道やガスなどのライフラインが使えない状況で数日間自足するためにも役立つ。また、非常用持ち出し袋を作る際に災害発生時のことを考えることができるため、災害に対する意識も上がるだろう。

三つ目は、災害発生時に早く行動をすることである。災害によって命を落したり、けがをしたりする原因は逃げ遅れにあるだろう。地震、豪雨、火山の噴火などの避難指示が出た場合、実際に避難する人は少ないだろう。その原因は、何の警報が出たときに何をすれば良いのか、避難すべきタイミングはいつなのか、どのような状況なのかをしっかりと把握出来ていなく、避難をしない人が多いからだろう。これだと、状況がひどくなり、本当に避難しなければいけない時に避難出来なくなってしまふ。災害に関心を持ち、早めに後のことまでよく自分で考えて避難するのが良いだろう。

最後に四つ目は、災害発生時に恐怖で焦ったり、動けなくなったりするのではなく冷静に何をすべきか考えることだ。一人でいるときや真夜中など、学校の避難訓練ではほぼ想定されない状況で災害が発生したときに、正しい行動をとる自信はあるだろうか。いつでも起こるか分からないから、色々なパターンを考えておくと良いだろう。

「ハザードマップでの災害発生時の対応の確認」「非常用持ち出し袋の用意」「素早い避難」「冷静な判断と行動」これら四つに意識を向ければきっと被害は抑えられるはずだ。被害が起きてからでは遅い。災害への意識を高め、防災・減災に力を入れることが僕たちにできることではないだろうか。

伊豆半島東海岸の中心に位置する伊東市は、天城山系を背に、相模湾に向かって開けた山や海の自然に恵まれた温泉地で、その温泉の歴史は古く、平安時代にはすでに開湯していたと言われています。江戸時代には徳川将軍家の献上湯として知られた名湯で、現在も毎分約30,000リットルの湧出湯量を誇る人気の温泉地として全国各地から多くの観光客の皆さんに訪れていただいております。

また、相模湾の新鮮な魚介類やみかんなどの山海の幸に恵まれ、気候は、一年を通じて温暖であることから、



小室山山頂(伊東八景)



石脇沢砂防堰堤(伊東市八幡野)

季節の花々を楽しめるスポットも豊富にあります。

豊かな自然に恵まれている一方、急峻な地形が連なり、急傾斜地崩壊危険箇所や土石流危険渓流も多く、土砂災害に対する危険性については、常々危惧しているところでもあります。

こうした中「安全・安心に暮らせる持続可能なまちづくり」を念頭に置き、市民と共に災害の防止に努めていきたいと考えております。今後も県をはじめとした関係各機関のなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

歴史探訪

伊豆半島初の砂防事業

伊豆半島は、県内でも年間降水量が多いにもかかわらず、糸魚川-静岡構造線や中央構造線に囲まれた県中西部に比べると、砂防指定地の指定や砂防事業の着手が遅く、砂防指定地の指定については、大正6年10月5日に白田川支川久保川流域(東伊豆町片瀬)の一部で指定され、砂防事業については昭和12年から白田川(東伊豆町白田・片瀬)で玉石コンクリート堰堤に着手したのが始まりです。昭和13年には、梅雨前線豪雨や台風により県東部から伊豆地方にかけて大きな被害が生じ、県は通常砂防事業のほか、災害対策第2予備金の国庫補助を受け、柿木沢、土肥山川(伊豆市)、戸田大川、江梨中川(沼津市)、那賀川支川内沢川(松崎町)など14カ所で砂防堰堤の工事を行いました。この災害を契機に本県の砂防事業は著しく進展することになりました。

白田川については、昭和12年から戦時中も含め昭和20年まで通常砂防事業として、床固工等の整備を行い、昭和33年狩野川台風や令和元年東日本台風などの災害を受けたものの一部の施設については、建設当時の姿を今にとどめています。



昭和13年撮影



白田川(賀茂郡東伊豆町白田地先)

令和4年撮影

松沢川第1砂防堰堤完成式が開催される

1月11日(水)に、松沢川第1砂防堰堤完成式がクリーンセンターいず(伊豆市)で開催されました。

松沢川第1砂防堰堤は、国土交通省沼津河川国道事務所が伊豆市佐野に建設した高さ14.5m、幅68mの不透過型砂防堰堤で、人家30戸のほかクリーンセンターいずや県道修善寺天城湯ヶ島線などを保全します。

式典は、地元選出の国会議員、県議会議員をはじめ、国土交通省水管理国土保全局砂防部長、中部地方整備局長、静岡県、伊豆市、伊豆の国市の関係者が出席し、来賓祝辞や事業説明の後、堤銘板の除幕が行われました。



記念撮影の様子

静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会の開催

1月19日(木)に、静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会を県庁で開催しました。

本幹事会は、土砂災害防止法に基づく総合的な土砂災害対策の円滑な実施を図るために、県内部の関係各課の取組や課題等について情報共有するものです。今年度は、砂防課による、基礎調査対象箇所の新規抽出に関する情報提供に加え、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に係る課題等について、情報共有を行いました。



会議の様子

静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会を開催

1月27日(金)に、「令和4年度(第27回)静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会」を静岡県男女共同参画センターあざれあ(静岡市)で開催しました。

総会では、会員の急傾斜地パトロール等の参加や台風15号による土砂災害被害状況現地調査、会長の全国連絡協議会や砂防ボランティア全国の集い(和歌山県田辺市)への出席などの令和4年度の活動報告と、令和5年度の活動予定の確認、県職員の定年延長に伴う規約の改正及び会員等の表彰の紹介を行いました。

また、総会終了後、杉本砂防課長による「静岡県の砂防を取り巻く状況」と題した研修を行いました。



総会の様子

令和4年度 東海地区直轄砂防事務所・砂防主管課長会議が開催される

2月1日(水)に、東海地区直轄砂防事務所長・砂防主管課長会議が、長野県木曾合同庁舎(長野県木曾郡木曾町)で3年ぶりの対面方式で開催されました。

会議には、国土交通省砂防計画課竹島企画専門官をはじめ、中部地方整備局及び管内直轄砂防事務所長、長野県・岐阜県・静岡県・三重県・愛知県の各県砂防主管課長が出席しました。

会議は、本省から予算や施策に関する情報提供に続き、無流水溪流対策や土砂災害情報の把握など、本省や各機関からの提案議題の討議が行われました。



会議の様子

第63回砂防および地すべり防止講習会が開催される

2月17日(金)に、「第63回砂防および地すべり防止講習会」が砂防会館別館(東京都)で開催されました。

講習会に先立ち、砂防行政の発展及び砂防技術の向上に多大な功績があった方々に贈られる赤木各賞の授与式が行われ、静岡県関係では静岡大学名誉教授の土屋智氏に赤木賞が授与されました。

講習会では、赤木賞を受賞された土屋名誉教授の「豪雨、地震が起こす山地災害」の特別講演をはじめ、三上砂防部長の「今後の土砂災害対策の報告」、宮坂北海道厚真町長の「平成30年北海道胆振東部地震からの復旧・復興、そして創生へ」など、砂防全般にわたった幅広い講演がありました。



土屋智氏受賞の様子

第5回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議を開催

3月10日(金)に、「第5回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議」をWeb会議形式で開催しました。

この会議は、平成30年度に策定した伊豆東部火山群緊急減災対策砂防計画に基づく各種取組を推進するため、国、県、市の関係機関が集まり、調整や情報共有を図るものです。第5回の会議では、砂防計画に関する各機関の取組の進捗状況及び課題を情報共有しました。今後も定期的に会議を開催し、取組を推進していきます。



Web会議の様子

第3回逢初川土石流災害対策検討委員会を開催

3月23日(木)に、第3回逢初川土石流災害対策検討委員会を、静岡県庁で開催しました。

本委員会は、令和3年7月3日の土石流を受けて、監視体制や応急対策を検討するため、発災4日後の7月7日に土砂災害の専門家、国・県・市の行政機関を構成員として設置したものであり、熱海市に対しては警戒避難の基準づくりのための技術的支援を行ってきました。

これまでに現場は、国直轄による砂防堰堤の整備が完了し、源頭部にある不安定な盛土についても、行政代執行による土砂の撤去を進めており、安全性の向上が図れてきたことから、対策完了後の土石流災害リスクへの考え方について技術的な助言をもらうため、今回開催したものです。

今回の委員会で、災害対策基本法63条による警戒区域の解除に向け技術的アドバイスをいただき、熱海市は解除に向け監視などのソフト対策を検討していくこととなりました。



委員会の様子

第13回富士山火山防災対策協議会が開催される

3月29日(水)に、火山専門家や国、静岡・山梨・神奈川県、市町村等の90を超える関係機関で構成される「第13回富士山火山防災対策協議会」が、Web会議形式で開催されました。

今回は、令和4年度の協議会における事業報告や令和5年度の事業計画(案)のほか、令和3年度より検討していた富士山火山広域避難計画改定に関する報告について説明があり、いずれも了承されました。令和3年3月の富士山ハザードマップの改定に伴い、今後、富士山火山広域避難計画に反映されます。



協議会の様子

募集・お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の募集

今年度も土砂災害の恐ろしさや土砂災害防止の重要性を伝えるため、絵画・作文を募集します。募集要領については、各小・中学校へ送付しますが、下記でもご覧いただけます。

【募集対象】 小・中学生 【応募期間】 6月1日(木)～9月15日(金)

【応募方法】 作品には応募者の学校名(ふりがな)、学年、氏名(ふりがな)を明記してください。

【応募先】 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

静岡県交通基盤部砂防課 砂防班

TEL(054)221-3044 FAX(054)221-3564

詳細は、砂防課ホームページからご覧いただけます。

<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/sabo/index.html>



出前講座・土砂災害防止講習会の開催募集

土砂災害に関する出前講座・講習会を開催しませんか？ 県の砂防課や土木事務所の職員が講師として説明に伺います。お気軽にお問合せください。

【出前講座の対象】 小学生～高校生

【講習会の対象】 どなたでも

【開催日時】 相談ください

問合せ

静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課

TEL(054)221-3044 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp

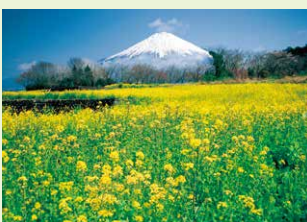


土木事務所企画班砂防担当者の紹介

県砂防課では、出前講座および講習会を随時受付けております。

事務所	企画TEL・FAX	担当者
下田土木	TEL:(0558)24-2113 FAX:(0558)24-2123	土屋勇太
熱海土木	TEL:(0557)82-9172 FAX:(0557)82-9110	櫻井俊彰 勝亦俊介
沼津土木	TEL:(055)920-2212 FAX:(055)922-6684	木ノ内楨 森下元葵
富士土木	TEL:(0545)65-2794 FAX:(0545)65-2270	吉田耕介

事務所	企画TEL・FAX	担当者
静岡土木	TEL:(054)286-9322 FAX:(054)286-9375	廣瀬敏雅 内山翔太
島田土木	TEL:(0547)37-5272 FAX:(0547)37-6183	中谷恭右 高守彩加
袋井土木	TEL:(0538)42-3216 FAX:(0538)42-1782	大石理智
浜松土木	TEL:(053)458-7266 FAX:(053)458-7193	植野雄大 貝沼征嗣



【表紙写真】

菜の花と富士山 (撮影地:富士宮市)

写真提供: 静岡県観光協会

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集・後記

砂防協会も4月より新たな体制でのスタートとなりました。一人でも多くの皆様に、砂防事業について周知していけるよう精進してまいりますので、今後ともより一層のご厚誼を賜りますようお願い致します。花々の咲き競う躍動の春に、皆様ますますのご活躍を心よりお祈りいたします。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/sabo/index.html>



第210号 発行日: 令和5年4月15日

編集・発行: 全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail: sbkk_s@yahoo.co.jp

